

淨瑠璃根本鑑
三編

一名
きりぎりす
集

子 友 懺
 玉 藻 前
 神 祇 教
 忠 臣 蔵
 紙 子 仕 五
 岸 姫 松
 姑 女 三
 北 四 孝
 明 ぐ ず
 以 所 機

目録

猿蓑川伝家の腰
 道楽鍛の腰
 新輶のどん
 山科のどん
 大文字やの腰
 三股目のどん
 日本屋の腰
 十種者の腰
 揚屋のどん
 三股目のどん



八お 姫 金 三十三 日 醫 安 姉 妹 御
 糸 山 山 山 山 山 山 山 山 山
 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸 糸

吉田やの服
 掛金のどん
 鈴ヶ煮の服
 糸又のどん
 華たの服
 三服目のどん
 笑 おんど
 順切のどん
 穀谷のどん

千両幟

サリ

相撲の男お持に戸巻
 女お持に戸巻
 女お持に戸巻
 女お持に戸巻
 女お持に戸巻

後世に傳へるべきにわぬ

國といふ事の内をわぬ

そよふ妹を國にわぬ

くのかきひひをわぬ

と後をわぬといふにわぬ

物いふまゝていふにわぬ

むねをわぬといふにわぬ

むねをわぬといふにわぬ

むねをわぬといふにわぬ

むねをわぬといふにわぬ

もむじろえまきくふきれ
花の初めをきして下つて
けのえと母れいといふと
こころや本とのほふは同
近てたつたえつてもみ

とまうと想くものすい
たのふもかきかた
るもの流るたうと
かたのしはかきかた
ぬきものふとくわ

てはうとてあめよあめ
つみねむとあめよあめ
まゐとあめよあめ
なほとあめよあめ
それとあめよあめ

三つとあめよあめ

八百屋蔵主

新報入段

サリ

ひととあめよあめ
なほとあめよあめ
それとあめよあめ

こゝろをさへみぬのち
悔あるよりいふ中へ
何れともあらで
ありとありあんと
あると母の泪は
はれの裏をさへ
悔かん

忠臣蔵

九段目

サハリ

こゝろをさへみぬのち
悔あるよりいふ中へ
何れともあらで
ありとありあんと
あると母の泪は
はれの裏をさへ
悔かん

わあやにも情氣さうあて
さうもかあせううせうい
どと嬢嬢あてうあふ
せうこれあてあて
あてあてあてあて
あてあてあてあて

あてあてあてあて
あてあてあてあて
あてあてあてあて
あてあてあてあて
あてあてあてあて

紙子社立
大なる屋

よきものつて人々へ
 兄の跡の面でもとらへ
 海ありまの物ありて
 此よりそ揚巻の巻物

素よりほけの物も
 切下より袋の七枚に
 今よりまの物のまじり
 れぬと谷よりて大なる
 海ありてそりあり

あともせむもすむくまの
かみ討ふ実法に因んれ
後身^{そち}にひんかんて
もまうこらむも
せもわも^{えん}わも^{えん}

救うん^{きう}ん^んも^もも^も
あんな^あも^もも^も
せ^せの^のも^もの^の救^{きう}に^にも^も金^{きん}
か^かま^まの^のな^なも^もも^も
た^たん^んか^かた^たに^には^はた^たら^らぬ

恋娘昔八丈

城木屋しろぎや暖ぬく

六六

かゝるかににあうあままひひがが
びびんんののああままんん
ううねねるるああままんん
そそののああままんん

かかゝゝるるににああうあままひひがが
びびんんののああままんん
ううねねるるああままんん
そそののああままんん

想をまゐるゝとてそがら
中庭のたのこせとせと
先のせりて極むしけり
おのゝかゝるゝのゝとて
り同族なまゝとてとて

て指を風をむとて
もぬけて後入のゝと
まゝとてとてとて
かゝるゝのゝとて
とゝの孫の孫の孫

人十七

月夜思郷のてとて
 らんともかくる光緒
 かき連のりもこけふ
 秋もひとくたたとてふ
 いそ下るふぬれふ

男とえろおまをあらり
後承るんぞひやれろ

市所楊三

まゝなる平いもとのを
押扶衣らるぬつぬお

たすけの徳ひの
保持れぬぬの者の
若御とあつぬぬ
化りたるは私元接
姫御生福井村の

何事をもねねとて年々
終に終もて月日のまはれ
の月日の終もて月日のま
中ふへ終もて月日のま
ふふふと人をもて年々

つねにねとねとて年々
終に終もて月日のま
の月日の終もて月日のま
つねにねとねとて年々
終に終もて月日のま
の月日の終もて月日のま

ちやまたに相方のなを
我のふゆじは相親依
縁の情は清いまた妹の
戀は清い人

夕暮 伊勢 吉田屋

また海でも水でも
ちやまたのなを
我のふゆじは相親依
縁の情は清いまた妹の
戀は清い人

首尾は首尾を結ぶれ

細き糸をわりのわりの

白木のそとへ伸べんは

外をわたり紙を若く

はくきききききききき

こころのままをわりの

わりの糸をききききき

ききききききききき

ききききききききき

の糸ききききききき

まとも人の悲ぬる私ふ
悔りあふべにかなふも悔
るまふれり凡そ
二年都るもほろをれ
とすのわさしまたふひ

初ひ應難さう国ふふ
あふふと結ふとけし
あまてけとふつあて
あふふにさしてあふふ
あふふあふふあふふ

いよむじしきまそこのねが
んがきつるほでけえんを
撫て撫つるあかめつ
てあかきわきひれん
すてやうすまんや

相秋の氣まゝに
空はあまのねの
秋まのねの
あまのねの

かきおとすいふ納税と
 ひまふといふとあれど
 状の報ぬやういふと
 楽よりいふとむねも
 事必なる七々八八の
 事

おびれおかしな方うら
 めるものいふの極ひも
 妹のよのけいふも
 のいふ物の極ひも

鶴ヶ森

下

海を渡るのりやさんあゝの
まはるはるはるはるはるはる
くても竹垣の邊を渡る
のりやさんあゝのりやさんあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

海を渡るのりやさんあゝの

三途原
三途目
三途

あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

想ひおとせのまゝと
別ははくする用ひ
てふのひかき
半のまゝおとせ
あぬれはくする

（おとせ）

いさゝかひのまゝと
別ははくする
あぬれはくする

（かん） 帯屋の殿 かり

いさゝかひのまゝと
別ははくする
あぬれはくする

のほねももんづきぬと
びれた可もぬれぬと
過むひととむふと
あて何ふもぬれぬと
あて何ふもぬれぬと

八ノ三

ぬれぬとぬれぬと
ぬれぬとぬれぬと
ぬれぬとぬれぬと
ぬれぬとぬれぬと
ぬれぬとぬれぬと

身といひしん

日吉丸 推櫻
三談目

サハリ

櫻のひでまりとさひひ
びうきひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ
ひひひひひひひひひひ

いづれもあふはるるあふれ
継刻とあふるむと
あふるむとあふるむと

正三間堂棟由來 かんど

あふるむとあふるむと

八ノ三

あふるむとあふるむと
あふるむとあふるむと

全 奥音韻

あふるむとあふるむと
あふるむとあふるむと

都の夜も花よりをみり

子ヨシク
ヨイナ

睡山姥

設也

あつこふあつこふ

あつこふあつこふ

入三

他玉の夜も花よりをみり

あつこふあつこふ

あつこふあつこふ

あつこふあつこふ

あつこふあつこふ

あまのついでにまゐる
お母もななはに機は
門も機もななはに機は
おとろとろとろとろとろ
あまのついでにまゐる

(大、世)

おけえ
郎業 鰻谷 設

お母もななはに機は
おとろとろとろとろとろ
あまのついでにまゐる
お母もななはに機は
おとろとろとろとろとろ

明治十九年八月六日出版御届

定價金三十銭

同同

年八月廿五日出版發賣

年九月廿日製本換御届

校閱 豐澤 松太郎

大阪府平民

編輯人 寺澤 久萬七

西區江戸堀南通壹丁目
二番地

大阪府平民

出版人 竹中 清 助

東區唐物町四丁目
三番地

淨瑠璃根本鑑

一名
サハリヅク

おやい度ぞは松を節朱入サハリを
上中下かのりきよく製本發賣する
以方の結着はきく顔をもはし續求る程
伏しきき希きものありて是に淺る
おの後編は續き進みお極の〜

小延笑政
光勇